

# 大坂の陣とその時代

今年度のミュージアム連続講座は、大阪市立東洋陶磁美術館、大阪市立美術館、大阪城天守閣、大阪歴史博物館の4館に、大阪文化財研究所と大阪市立大学が加わり、「大坂の陣とその時代」をテーマに合計3回の講演会を行います。

平成 27年 1月 30日(金) / 2月 6日(金) / 2月 13日(金) 全 3回

大阪市立難波市民学習センター講堂 いずれも午後7時～8時30分 (午後6時30分開場)

## 第1回 平成27年1月30日(金) 大坂の陣と「大阪」再論!

【16世紀「大阪」論－秀吉は何故、大坂を選んだのか－】 大阪市立大学大学院 仁木 宏

【「大坂の陣」の意味を考える】 大阪城天守閣 宮本 裕次

## 第2回 平成27年2月6日(金) うつわで語る豊臣時代の暮らしともてなし

【大坂出土の桃山陶磁】 大阪歴史博物館 松尾 信裕

【秀頼公さま、お成り】 大阪市立東洋陶磁美術館 重富 滋子

## 第3回 平成27年2月13日(金) 屏風絵から読み解く

【エッゲンベルク城豊臣期大坂図屏風と征倭紀功図巻】 大阪文化財研究所 黒田 慶一

【大坂の陣と洛中洛外図屏風】 大阪市立美術館 知念 理

※本講座はネットワーク型市民セミナーとして、大阪市立難波市民学習センターとの共同で実施しています。

参加費 無料  
定員 120名 ※応募者多数の場合は抽選  
会場 大阪市立難波市民学習センター講堂

申し込み方法 往復はがきに、名前(ふりがな)、年齢、郵便番号、住所、電話番号をご記入の上、下記宛先までお申し込みください。

※全3回一括での申し込みとなります。特定の日のみの参加または申し込みはできません。

※はがき1枚につき1名のお申し込みとなります。

※講座のお申し込み時の個人情報につきましては、本講座に関する連絡のみに利用させていただきます。

申し込み先 〒540-0008

大阪市中央区大手前 4-1-32 大阪歴史博物館内  
(公財)大阪市博物館協会 連続講座 係

締め切り 平成27年1月15日(木)まで(当日消印有効)

問い合わせ 大阪市総合コールセンター(なにわコール)  
TEL: 06-4301-7285 FAX: 06-6644-4894

主催 公益財団法人 大阪市博物館協会、公立大学法人 大阪市立大学、  
大阪市立難波市民学習センター(指定管理者: 大阪市教育振興公社・SPS 共同事業体)



大阪市立難波市民学習センター講堂  
大阪市浪速区湊町1丁目4番1号 OCATビル4階  
地下鉄御堂筋線・四つ橋線・千日前線「なんば」駅下車、  
JR「JR難波」駅上  
近鉄・阪神「大阪難波」駅、南海「難波」駅下車  
<http://www.osakademanabu.com/namba/>

※詳しい日程や内容は裏面をご覧ください。

ミュージアム  
連続講座  
2014

# 大坂の陣とその時代

全3回【一括申込：事前申込が必要です】 いずれも午後7時～8時30分（午後6時30分開場）

平成27年1月30日(金) 第1回 大坂の陣と「大阪」再論！

16世紀「大阪」論 -秀吉は何故、大坂を選んだのか- 大阪市立大学大学院 文学研究科教授 仁木 宏

中世日本の首都は京都でした。しかし、16世紀になると、政治・経済・宗教などの諸側面で「大阪」（摂津・河内・和泉）が台頭してきます。信長はどうして徹底的に本願寺と戦ったのか。秀吉は何故、大坂に城と城下町を築いたのか。自然環境や国内・国際情勢から16世紀「大阪」の卓越性を論じます。

「大坂の陣」の意味を考える 大阪城天守閣 研究副主幹 宮本 裕次

大坂の陣といえば、徳川家による天下統一が確定した戦国最後の合戦として知られています。しかし見方をかえれば、徳川政権による全国統一への第一歩だったともいえます。庶民や浪人たちの動きなどにも注目し、大坂の陣をとらえ直す様々な視点を提供します。

平成27年2月6日(金) 第2回 うつわで語る豊臣時代の暮らしともてなし

「大坂出土の桃山陶磁」 大阪歴史博物館 研究主幹 松尾 信裕

大阪市内では1980年代から豊臣期の城下町の発掘調査を数多く行っています。それらの調査で、町屋の敷地からたくさんの陶磁器が見つかっています。今回は、豊臣期の大阪城下町の町屋敷の姿や、町屋敷から見つかる大坂の陣直前の陶磁器の種類や形などについて、発掘調査の成果を活かして話をします。

「秀頼公さま、お成り」 大阪市立東洋陶磁美術館 学芸員 重富 滋子

慶長17年11月19日に豊臣秀頼が、織田有楽邸におなりになりました。その折のもてなしの詳細が『有楽亭茶湯日記』に記載されています。その他にも「俄かの御成り」など天満にあった有楽邸などを二度訪ね、茶の湯の接待を受けています。どのような器やご馳走でもてなしたのかをお話しします。

平成27年2月13日(金) 第3回 屏風絵から読み解く

「エッゲンベルク城豊臣期大坂図屏風と征倭紀功図巻」 大阪文化財研究所 主任学芸員 黒田 慶一

オーストリア・エッゲンベルク城所蔵「豊臣期大坂図屏風」は、“Pax Ozacana（パクス オザカーナ：大坂を中心とする平和）”を描いたものです。一方、同時期の「征倭紀功図巻」は朝鮮半島での明・朝連合軍と秀吉軍の死闘を活写しています。その時代の二面性を両図をもとに述べます。

「大坂の陣と洛中洛外図屏風」 大阪市立美術館 主任学芸員 知念 理

大坂の陣という天下を揺るがす大事件は、京の四季折々の暮らしぶり、寺社や芝居街など名所のにぎわいを描く「洛中洛外図屏風」の制作にも大きな影響を及ぼしました。事件の前後で京の風景はどう変化したのか・・・「政治を写すメディアでもあった「洛中洛外図屏風」の面白さをマニアックにご紹介します。